

Ⅰ 文（文章）で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点（独立採点）すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容（語句）などがある場合は、その内容（語句）を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 文脈のねじれがある、また主述の対応に問題があると判断される場合は、要素ごとに加点した上で、全体から2点減点する。
- ③ 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

□ (50点)

問一 a占有 b勃興 c早計 d惰性 e覚束 各2点 解答通り

問二

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点10点

■模範解答例

A 人間が、精神の中での数学的処理やシンボル操作に基づいて 地図や海図・地球儀を作成し、地球上の物理
D 的な距離を 肉体的感覚で理解できる間尺にまで圧縮したということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字〜八十字 二十九字以下のものは全体不可（0点）

■要素A「人間が、精神の中での数学的処理やシンボル操作に基づいて」…3点

- ・本文の「人間の精神は数やシンボル、モデルを用いて」に基づく説明。これをそのまま引いていてももちろん可。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「地図や海図・地球儀を作成し」…2点

- ・本文の「作成された地図や海図」「居間に地球儀を持ち込んで」に基づく説明。「地球儀」を欠いていても可。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「地球上の物理的な距離を」…2点

- ・本文にそのままの記述がある。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「肉体的感覚で理解できる間尺にまで圧縮した」…3点

- ・本文の「人間の肉体の感覚が自然に理解できる間尺にまで圧縮する」に基づく説明。これをそのまま引いていてももちろん可。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末表現は「…(という)こと」が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素C参照

基準 配点4点

■模範解答例

A B

生活上の直接的な必要や効用に基づく関心。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…二十字 九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「生活上の」…1点

- ・「生活」という語は必須。あれば1点、なければ0点。

■要素B「直接的な必要や効用に基づく」…3点

- ・「直接(的)」「必要」「効用」を各1点として採点する。「効用」は「有用性」でも可。

■要素C 文末表現は「…関心」という形が原則。但し「関心」の内容の説明である事が明らかでない場合「…こと」でも可。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点1.2点

■模範解答例

A 人間の感覚器官では直接に感知できない現象の観測を可能にする器具・装置の出現により、自然が人間か
 B
 C
 D
 E
 F
 ら遠ざかり、さらに感覚に基づく知の誤りが証明されることで、認識・理解能力に対する深刻な疑念を抱いた人間が、自己の内面へと逃避するようになったこと。

■採点方法・各要素単独採点

■字数…百字〜百二十字 四十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「人間の感覚器官では直接に感知できない」…2点

- ・本文の「感覚器官では感知できない」「人間の直接的な感覚」に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「現象の観測を可能にする器具・装置の出現」…2点

- ・本文の「器具を通して」「装置を通じた」「道具や器具によって」に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「自然が人間から遠ざかり」…2点

- ・本文の「人間は自分と自分を取りまく自然に対して、距離を置いて」「自然と世界はますます人間から遠ざかり」といった記述に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「感覚に基づく知の誤りが証明される」…2点

- ・本文の「人間の日常的な感覚のほうの間違ってしていることを証明した」に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「認識・理解能力に対する深刻な疑念を抱いた人間」…2点

- ・本文の「人間の認識・理解能力に対する深刻な疑念がそこからは必然的に生じてくる」に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「自己の内面へと逃避するようになった」…2点

- ・本文の「人間は自己の内面へと逃避することになった」「人間はますます自己の内部へと沈潜する

- ・ ことになる」に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 文末表現は「∴(という)こと」が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点1点

■模範解答例

A 神による人間救済の確かさを喪失したキリスト教徒が、地上世界における生活を修行期間であると考え、自

B

C らの救いを確認するために熱狂的に善行を積もうとすることが世俗内禁欲である。それが逆説的であるのは、

D 世俗内禁欲へと人間を駆り立てるものが、来世での自らの救いを確認しようとする欲求であり、禁欲の前提

に欲望があるからである。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百四十字～百六十字 六十九字以下のものは全体不可(0点)

* 要素AとCが「世俗内禁欲」に関する説明、それが「逆説的」であることの説明がD・Eである。

■要素A「神による人間救済の確かさを喪失したキリスト教徒」…3点

- ・本文の「宗教(＝キリスト教)が失ったのは…、『救いの確かさ』だったのである」に基づく説明。
- ・「神による」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・「キリスト教」または「宗教」という語は、答案の別の箇所にあってもよいが、なければ1点減点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「地上世界における生活を修行期間であると考え」…3点

- ・本文の「この地上の世界における生活を長期にわたる修行期間であると考えて」に基づく説明。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「自らの救いを確認するために熱狂的に善を積もうとする」…3点

- ・本文の「自らの救いを確認するために善を行いたいという熱狂が沸き起こった」に基づく説明。
- ・「熱狂的に」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「世俗内禁欲へと人間を駆り立てるものが、来世での自らの救いを確認しようとする欲求であり、禁欲の前提に欲望がある」…5点

- ・「世俗内禁欲」へと人間を駆り立てるものが、「来世での生・来世での救済」への「欲求」「欲望」であるということが明確に読み取れれば可。要素Dの最後の「禁欲の前提に欲望がある」はなくても可。
- ・「世俗内禁欲」が現世、「救済」が来世という対比が、答案の文脈全体からも明確に読み取れない場合は3点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素E

文末表現は「…から(である)」「という形が原則。但し、答案全体が、設問の求めている理由の説明になっていると判断できれば許容してよい。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

□ (50点)

問一 a 精進 b 旺盛 c 伏線 d 投稿 e 堤防 各2点 解答通り

問二

■形式上の不備

・文末表現は要素E参照

基準 配点10点

■模範解答例

A

優れた芸術作品に感動している人間の内部に生じる、甘美な自己肯定感に浸り込み満足してしまうことの安

B

C

D

易さをその人間に自覚させ、それに対して自己規制を求めてくる感覚。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字 三十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「優れた芸術作品に感動している人間の内部に生じる」…2点

・「優れた」「内部に生じる」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加
してよい。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「甘美な自己肯定感に浸り込み満足してしまう」…2点

・本文の「(感動というのは)ある種の甘美な自己肯定感」に基づく説明。ほぼ同内容の説明が
なされていると判断できれば加
点してよい。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「安易さをその人間に自覚させ」…3点

・本文の「安易にそれ(自己肯定感)に浸ることを許すまじとする」に基づく説明。ほぼ同内容
の説明がなされていると判断できれば加
点してよい。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「それに対して自己規制を求めてくる」…3点

・本文の「自己規制の感覚」に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加
点してよい。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

* 要素C・Dに関して「ツッコミを入れる」というだけの説明は不可。

■要素E 文末表現は「…感覚・もの」という形が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問三

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点1.4点

■模範解答例

A
芸術作品は一個人のみならず、不特定多数の享受者を前提とするので、人間も私的な個であると同時に公的存在の一員としてそれを享受する。その結果、恣意的に感動する個人的な自己と、それを諫め抑制する公的な自己という複数の自己を人間が感得することになる。
E
C
B
D

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百二十字 五十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「芸術作品は一個人のみならず、不特定多数の享受者を前提とする」…3点

- ・本文の「わたしのためだけに存在しているわけではない」「不特定多数にむけて」といった記述に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明がやや曖昧であると判断される場合は2点、かなり曖昧と判断される場合は1点。

■要素B「人間も私的な個であると同時に公的存在の一員としてそれを享受する」…3点

- ・本文の「芸術作品を享受する人間に関する「わたしたちは、『公の一員』である自己と『ただひとりしか存在しない個人』としての自己とに分裂する」という記述に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「恣意的に感動する個人的な自己」…3点

- ・本文の「勝手な基準」「個人の暴走」といった記述に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば、広く許容して加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「それを諫め抑制する公的な自己」…3点

- ・本文の「『公の一員』としての自己」が「暴走しかけた個人としての自己を諫め、ブレーキをかける」という記述に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・「諫める」、「制御する(ブレーキをかける)」のいずれか一方だけ示されている場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「複数の自己を人間が感得することになる」…2点

- ・傍線部冒頭部分をなぞったものであるが、明快な答案のまとめとしての機能を果たす記述である。
- ・ほぼ同内容の記述があれば、広く許容して加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 文末表現は各種予想され限定できません。答案全体が設問の求める内容をまとめていると判断できれば可。文末が明らかに不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問四

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点16点

■模範解答例

A
B①
B②
B③
C
D
E
自己が、感動に身をまかせようとする個的な自己に問いかけ、前者が後者を公的な存在に引き上げようとしているから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百五十字 七十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「芸術を鑑賞する人間の内部では」…2点

- ・傍線部の「セルフ・エデュケーション」の行われる場の提示。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・「内部」を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

* 要素Bは要素Cの「作品と外的世界との関係性」の具体的内容の提示である。

■要素B ①「作品の歴史的な位置付け」…2点

- ②「先行作品からの影響」…2点
- ③「芸術家の個性や能力などへの依存度」…2点
- ①・②・③とも本文にほとんど同様の記述がある。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は、それぞれ1点。

■要素C「作品と外的世界との関係性を正しく認識しているかどうか」…3点

- ・本文の「作品が外の世界と結んでいる関係性を、〈個Ⅱ自己〉が正しく認識しているか」に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「公的立場に立つ自己が、感動に身をまかせようとする個的な自己に問いかけ」…3点

- ・本文の「〈公Ⅱ自己〉は〈個Ⅱ自己〉に要素Cについて「問うてくる」に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・「問う」「問いかける」という意味の語を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「前者が後者を公的な存在に引き上げようとしている」…2点

・本文の「人間を公の存在へと高める」に基づく説明。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 文末表現は「…から…ので…ため…という理由(による)」といった形が原則。理由説明の

答案になっていると判断できれば許容してよい。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

★2021年度 第2回 阪大本番レベル模試（人外法経）

目 (古文『更級日記』) 採点基準

※50点満点

問一 (a) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点

〔傍線部〕

A | くまなく B | あかき

〔模範解答〕

A | 陰りもなく B | 明るい折

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

〔ポイント〕

要素 A [一点] くまなく ↓ 陰りもなく

※「陰りがなく・暗いところがなく」の意があればよい。語尾は「くない」（連体形）でもよい。

※「欠けたところもなく」は×。

要素 B [一点] あかき、 ↓ 明るい折

※「明るい」の意があればよい。語尾が「明るく」などになっている場合は×。

※「赤い」は×。

問一 (b) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点

〔傍線部〕

AI げに **B**I とて

〔模範解答〕

AI 本当にそうね **B**I と言って

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

〔ポイント〕

要素**A**【一点】げに ↓ 本当にそうね

※「本当に・なるほど」の意があればよい。「そうね」の有無は不問。

※「そうね・そうだ」等だけでは**X**。

要素**B**【一点】とて、 ↓ と言って、

※「と・とて」は**X**。

問一 (c) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点

〔傍線部〕

A | その

B | かへる年

〔模範解答〕

A | その

B | 翌年

採点方法 各要素単独採点。
字数 指定なし。

〔ポイント〕

要素A【一点】その ↓ その

※要素BがXの場合は得点できない。

※「その年の」「てもよい。」

要素B【一点】かへる年 ↓ 翌年

※「次の年」「てもよい。」来年「はX。」

問一 (d) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点

〔傍線部〕

A |

くちをしく

B |

おぼゆ

〔模範解答〕

A |

残念に

B |

思われる

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

〔ポイント〕

要素A【一点】

くちをしく ↓ 残念に

※「悔しく」でもよしとする。

要素B【一点】

おぼゆ ↓

思われる

※「感じる・思われた・感じられた」でもよい。

※「思う・思った」は×。

問二(ア) 傍線部について、主語(動作主)補って現代語訳なさい。

基準 配点 6点

「傍線部」

(A)

B

思へるけしきを見て

(D)

E

ことにF言ひなして、

「模範解答」

A 私が

B なんとなく恐ろしいと

C

思っている様子を見て、

(F) 話題を変えて、

採点方法 各要素単独採点。ただし、AはCとの、DはFとの関連あり。
字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【一点】(主語補い) ↓ 私

※Cの「思へ」の主語として補われていれよ。Cに「思へ」⇒思ふ(「がない場合、Cの「思へ」⇒思ふ(「の主語となっていない場合はX。)

※「書き手が・筆者が・作者が」等はX。

要素B【一点】なまおそろしと ↓ なんとなく恐ろしいと

※「何となく」は「それ」でもよい。これらの意がない「恐ろしいと」はX。

要素C【一点】思へるけしきを見て ↓ 思っている様子を見て、

※存続の意「〜ている」の意がな、「思う様子を見て」等はX。

要素D【一点】(主語補い) ↓ 姉は

※Fの「言ひ」の主語として補われていれよ。Fに「言ひ」⇒言ふ(「がない場合、Fの「言ひ」⇒言ふ(「の主語となっていない場合はX。)

※「書き手の姉が・筆者の姉が・作者の姉が」等はX。

要素E【一点】ことに ↓ 別の話に

※「他の話に・別のことに・他のことに」等でもよい。

※「あれこれと・様々に・いろいろと」等はX。

要素F【一点】言ひなして、 ↓ わざと ↓ 話題を変えて、

※「わざと」の有無は不問。「わざわざ・あえて・しいて」等でもよい。

※「話題を変えて」は、「話を変えて・言いつくろって・言い紛らわして・言い直して・言い変えて」等、または「取
りつくろって・紛らわして」等でもよく、要素Eが正解できている場合は、「変えて・して」でもよしとする。「言いな
だめて・なだめて」はX。

問二(イ) 傍線部について、主語(動作主)補って現代語訳しなさい。
基準 配点 6点

「傍線部」

(A)

B 呼びわづらひて、

C 笛をいとかしく吹き澄まして、

D 過ぎぬなり。

「模範解答」

A 萩の葉を訪ねてきた男性は、

B 呼び疲れて、

C 笛をたいそう趣深く澄んだ音で吹いて、

D

通り過ぎて行ってしまったようである。

採点方法 各要素単独採点。ただし、AはBとの関連あり。

字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【1点】(主語補い) ↓

萩の葉を訪ねてきた男性は、

※Bの「呼び」の主語として補われていれはよい。Bに「呼び(＝呼ぶ)」がない場合、Bの「呼び」の主語となっていない場合はX。

※「萩の葉を訪ねてきた」の有無は不問。「男性は・男の人は・男は」等、または「訪問者・訪ねて来た人」等の意があればよい。

要素B【1点】呼びわづらひて、 ↓ 呼び疲れて、

※「呼ぶのに疲れて・呼び飽きて・呼ぶのに飽きて・呼びかねて・呼び続けられなくて・呼び続けることができなくて」等でもよい。

※これら以外でも、「(返答を得るまで)呼び続けられなくて・呼んだのに返答を得られず困って」の意が読み取れればよしとする。

※「呼び」の対象としての「萩の葉(隣家の娘)」の有無は不問だが、誤ったものが書かれている場合はX。

要素C【2点】笛をいとかしく吹き澄まして、 ↓ 笛をたいそう趣深く澄んだ音で吹いて、

※「笛を吹いて+たいそう+趣深く+澄んだ音で」の意があればよい。

※「たいそう・趣深く・澄んだ音で」のうちの二つがないごとに、マイナス点。

※「たいそう」は「とても・非常に・大変」等でもよい。

※「趣深く」は「趣(情趣)がある・風流(風雅・優雅・雅)に・上手に」等でもよい。「おもしろく・興味深く・楽しく」等はX。

※「澄んだ音で」は「吹き澄まして・吹き澄ませて」等、「(音・笛が)澄む」の意が読み取れればよい。

要素D【2点】過ぎぬなり。 ↓、通り過ぎて行ってしまったようである。

※「通り過ぎる(行き過ぎる) +完了(しまった) +推定(ようだ)」の意があればよい。

※「通り過ぎる(行き過ぎる)」の意がない場合や、「過ぎ」を「時を過ぎす」等の意に誤っている場合はX。

※「完了(しまった) + 推定(ようだ) + 推定(ようだ) + 推定(ようだ)」のうちの二つがないことに、マイナス点。

※「過ぎ」の対象としての「家の前を・私たちの家の前を・萩の葉の家(隣家)の前を」の有無は不問だが、誤ったものが書かれている場合はマイナス点。

問三 和歌(A)・(B)について、この中で書き手と姉が言おうとしていることは、どのようなことか、六〇字以内で説明しなさい。

基準 配点 8点

「傍線部」(A) 笛の音のただ秋風と聞こゆるになど萩の葉のそよこたへぬ

(B) 萩の葉のこたふるまでも吹きよらてただに過ぎぬる笛の音ぞ憂き

「模範解答」

A4 書き手は、萩の葉は男性の呼びかけに答えればよいのということ。
B4 姉は、萩の葉の返答を待たずに去った男性は薄情だということ。(六〇字)

採点方法 各要素単独採点。

字数 六〇字以内。

「ポイント」

要素A・Bともに、

※「萩の葉」は「隣家の娘・女・女性」等でもよい。

※「男性」は、「萩の葉を訪ねてきた男性・隣家に来ていた男の人・女を呼んでいた男」等、または「訪問者・訪ねて来た人」等でもよい。

※「疑問に思っている・不思議に思っている・非難している・歯がゆく思っている」等の有無は不問。

要素A【4点】書き手は、萩の葉は男性の呼びかけに答えればよいのということ。

※「書き手は『女が男に答えるのがよい(答えるべきだ)』ということ」の意が読み取ればよい。「書き手は『女が男に答えないのはよくない』ということ」、「書き手は『女が男に答えないのは薄情だ』ということ」、「書き手は『女が男に答えない』のを非難している(批判している・歯がゆく思っている)」「でもよい。」呼びかけに「の有無は不問。

※右の意がなく「書き手は『なぜ女は男に答えないのか』ということ」の意がある場合は【3点】。

※「書き手」は「筆者・作者・妹」でもよい。これらの表現がなく「(A)・Aの歌・前者」となっている場合、書き手と姉を明らかにしておらず、まとめて「それぞれに」と説明している場合は、マイナス2点。これらに相当する語が全くない場合はX。

要素B【4点】姉は、萩の葉の返答を待たずに去った男性は薄情だということ。

※「姉は『女の返答(応答)を待てない(呼び続けない)男は薄情だ』ということ」の意が読み取ればよい。「姉は『女の返答(応答)を待てない男はよくない』ということ」、「姉は『男は女の返答(応答)を待つのがよい(待つべきだ)』ということ」、「姉は『男が女の返答(応答)を待たない』のを非難している(批判している・歯がゆく思っている)」「でもよい。」去った「の有無は不問。

※右の意がなく「姉は『なぜ男は女の返答(応答)を待たないのか』ということ」の意がある場合は【3点】。

※「姉」は「書き手の姉・筆者の姉・作者の姉」でもよい。これらの表現がなく「(B)・Bの歌・後者」となっている場合、書き手と姉を明らかにしておらず、まとめて「それぞれに」と説明している場合はマイナス2点。これらに相当する語が全くない場合はX。

問四 傍線部について、何を「いみじくあはれと思ひわたる」のか、また、何が「ましていはむかたなく」なのかを明らかにして現代語訳しなさい。

基準 配点 6点

【傍線部】 **(A)** **(B)**よそのことだに、 **(C)**幼くよりいみじくあはれと **(D)**思ひわたるに、 **(E2)**ましていはむかたなく、

【模範解答】 **(A)**人の死は、 **(B)**よその家のことでさえ、 **(C)**幼い頃からたいそうしみじみと悲しいことに **(D)**思い続けてきたのに、 **(E2)**まして姉の死は言いようもないほどで、

採点方法 各要素単独採点。ただし、AはCとの関連あり。
字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【1点】(補足) ↓ 人の死は、

※Cの「あはれ(＝しみじみと悲しい)」について補われていればよい。Cに「あはれ(＝しみじみと悲しい)」がない場合、Cの「あはれ(＝しみじみと悲しい)」について言われていない場合は×。

※「死は」でもよい。

※「子を残して」等の有無は不問。

要素B【1点】よそのことだに、 ↓ よその家のことでさえ、

※「家の」の有無は不問。「人の」でもよしとする。

※「でさえ」は「さえ・だけでも・すら・でも・であっても」でもよい。これらに相当する表現がない場合は×。

要素C【1点】幼くよりいみじくあはれと ↓ 幼い頃からたいそうしみじみと悲しいことに

※「幼くから+たいそう+悲しく」の意があればよい。どれか一つ欠けたら×。

※「たいそう」は「とても・非常に・ひどく」等でもよい。

※「しみじみと悲しいことに」は「悲しく・つらく」等、また、「しみじみと」等でもよい。「趣深い」等は×。

要素D【1点】思ひわたるに、 ↓ 思い続けてきたのに、

※「思う+続ける(ずっと)+のに(ので)」の意があればよい。どれか一つ欠けたら×。

※「し続ける」は「ずっとする」等でもよい。

※「のに」は「ので」でもよい。「と・ところ・時に」等は×。

要素E【2点】ましていはむかたなく、 ↓ まして姉の死は言いようもないほどで、

※「まして+姉の死(こと)は+言いようもなく」の意があればよい。どれか一つ欠けたら、マイナス1点。

※「姉の死」は「姉のことは・姉の場合は・姉については・姉であれば」などでもよい。

※「言いようもないほどで」は「言いようもなく悲しく・言いようもないほどにつらく」等や、「何も言えないほどで・口で言えないほどで・言葉にできないほどで」等でもよい。「言うまでもないこと・言うに及ばず」等や、「なおさらで・なおさら悲しく」等は×。

※現代語訳問題なので、文末が「ということ」等に成っている場合は、マイナス1点。

問五 傍線部について、「ちご」が誰であるかを明らかにして現代語訳しなさい。

基準 配点 6点

「傍線部」
ゆれば、

「模範解答」
[A] 荒れたる板屋のひまより月の洩り来て、 [B] ちごの顔にあたりたるが、 [C] いとゆゆしくおぼ
いるのが、 [C] たいそう不吉に思われるので、

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【1点】 荒れたる板屋のひまより月の洩り来て、 ↓ 荒れた板葺きの屋根の隙間から月の光が洩れて来て、

※ 「荒れた+板屋の+隙間から+月光が+洩れて来て」の意があればよい。どれか一つ欠けたら×。

※ 「荒れた」は「荒れている・荒廃した」等でもよい。

※ 「板葺きの屋根の」は「板屋の」のままや、「板の屋根の・板張りの屋根の」等でもよい。「板」の意がない「屋根
の」は×。

※ 「隙間から」は「すきから」でもよい。「間から」は×。

※ 「月の光」は「月光・月明かり・月の明かり」などでもよい。「月」や「光・明かり」は×。

※ 「月の光が洩れて来て」は「洩れて来た月の光が」でもよしとする。「洩れて来る」は「洩れる・洩れ入る・洩れ
出る」でもよい。「洩れる」の意がない「差して・入って」等は×。

要素B【3点】 ちごの顔にあたりたるが、 ↓ 姉の忘れ形見である子の顔に差しているのが、

※ 「姉の子の+顔に+差している+のが」の意があればよい。

※ 「姉の忘れ形見である子」は「姉の子」の意があれば、「姉の生んだ子・姉の忘れ形見」等でもよい。これが
場合や誤っている場合は、マイナス2点。

※ 「差している」は「差した・当たっている・当たった」でもよい。これがない場合や誤っている場合は、マイナス
1点。

※ 「のが」は「ことが・様子が」等でもよい。要素Cの「ゆゆしく」の主語となっていない場合は×。これがない場
合や誤っている場合は、マイナス1点。

要素C【2点】 いとゆゆしくおぼゆれば、 ↓ たいそう不吉に思われるので、

※ 「たいそう+不吉に+思われる+ので」の意があればよい。

※ 「不吉に」は「忌まわしく」等でもよい。「不気味に」となっている場合は、マイナス1点。
「つらく・ひどく・悲しく・寂しく」等になっている場合は、マイナス2点。

「不吉」があるが「不吉なほど美しく」等、「不吉」の意から離れる意になっている場合は、マイナス1点。

※ 「たいそう」は「とても・非常に・ひどく」等でもよい。これがない場合や誤っている場合は、マイナス1点。

※ 「思われる」は「思われた・感じる・感じた・感じられる・感じられた」等でもよい。「思う・考える」等は×。
これがない場合や誤っている場合は、マイナス1点。

※ 「ので」は「から・ため」等でもよい。「て」等は×。これがない場合や誤っている場合は、マイナス1点。

問六 傍線部について、書き手がこのように感じるのはなぜか、和歌(C)を踏まえて、一〇〇字以内で説明しなさい。

基準 配点 一〇点

〔傍線部〕 まことにぞあはれなるや。

(C) うづもれぬかばねを何にたづねけむ昔の下には身こそなりけれ

〔模範解答〕

A3・B3

姉が親戚に頼んで探していた『かばねたづぬる宮』という物語が、姉の生前には見つからなかったのに、姉が亡くなって本人がしかばねとなってしまった今頃になって見つかり、**C4**それが皮肉で悲しいことに思われるから。(九九字)

採点方法 各要素単独採点。ただし、CはA・Bとの関連あり。

字数 一〇〇字以内。

〔ポイント〕

※『かばねたづぬる宮』の『は』は「」でもよいが、『も』も付いていない箇所がある場合は、全体から**マイナス一点**(二箇所以上でも**減点は一点**)。

要素**A・B**【各**3点**】姉が親戚に頼んで探していた『かばねたづぬる宮』という物語が、姉の生前には見つからなかったのに、姉が亡くなって本人がしかばねとなってしまった今頃になって見つかり、

要素**A**【**3点**】

※「姉が探していた物語が、姉の死後に見つかった」の意が読み取れれば【**3点**】。

「姉の生前には見つからなかったのに」と今頃になって」の有無は不問。

※「姉が探していた」は「姉が探すように頼んでいた」でもよい。「親戚に」の有無は不問。

※「物語」は『かばねたづぬる宮』でもよい

要素**B**【**3点**】

※『かばねたづぬる宮』を探していた姉がしかばねになった」の意が読み取れれば【**3点**】。

「しかばね(屍)」「は」「かばね・遺体・遺骸・死体・遺骨・骨」等でもよい。

※「しかばね」に相当する表現はあるが、「姉がしかばねになった」の意がなく、「姉のしかばねを葬った」等となっている場合は【**2点**】。

※「しかばね」に相当する表現がなく、「死んだ・亡くなった」の意になっている場合は【**1点**】。

要素**C**【**4点**】それが皮肉で悲しいことに思われるから。

※**A・Bともに0点の場合は得点できない**。

※「皮肉だから」の意があれば【**4点**】。ただし、**Bが0点の場合は【2点】**。

「皮肉だから」の意があれば、「悲しいから」の有無は不問(「悲しいから」による得点はなし)はなくてもよい。

※「皮肉だから」の意がなく、「悲しいから・辛いから・切ないから・寂しいから」等がある場合は、**Bの点に関わらず【1点】**。